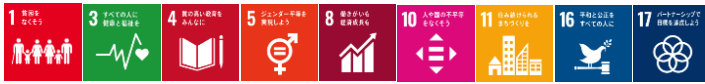


重点戦略3 結婚・出産・子育てへの希望をかなえる

総合計画 P149～150

●関連するSDGs



◆全国的に深刻さを増している少子化の背景には、経済的不安定さ、雇用に対する不安、子育ての孤立感・負担感等、様々な要因があり、それに加え、本市の人口動向の特徴として、20代は就職をきっかけとした転入超過、30～40代は結婚や出産を経た子育て世代の転出超過が見られる中、社会全体で、未来を担う若い世代や子育て世代への支援を進める取組を強化し、安心して子どもを産み、健やかに育てる「こどもまんなか社会※」の確立を図ります。

■数値目標の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

数値目標	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度
		令和4年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和10年	【CHECK】
出生数	人	333	294					360	△
数値目標の分析	令和5年は282人であったため、令和6年に若干の回復は見られました。しかし、目標値を考えますと、厳しい数値であると言えます。全国的に出生数が減少する中、子育て環境の向上及び定住促進に資する各種施策を展開し、子どもを産み育てやすいまちづくりを推進していきます。								

施策の方向性1 安心して結婚し、子どもを産み育てられる環境の整備

■主な取組(事業)の評価

【評価】必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★(最大評価：★★★★)

主な取組(事業)の名称 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)ファミリー・サポート・センター事業	7,983	★★★	市と地域住民(協会員)が協働して子育て支援を行うという側面があり、市が直接運営する意義は大きいと考えます。協会員の確保が課題であり、適時適切な支援が常時可能となるよう、事業の啓発の強化に努め、会員の確保に繋げる必要があります。	継続 (改善)
(2)子育て世代包括支援センター事業	3,533	★★★★	よりよい支援に向けて児童課と連携を強化するため、来年度より健康推進課での子育て世代包括支援センター機能と、児童課での子ども家庭総合支援拠点機能を一体化した「こども家庭センター」を設置します。新たに妊婦面談業務が追加されるため、人材確保が必要となります。	継続 (改善)
(3)「ファミリーフレンドリー企業制度」・「あいっこ家庭教育応援企業」等普及事業	0	★★★★	愛知県の実施する、あいちワーク・ライフ・バランス行動計画と連携しながら、市広報誌や市ホームページ等を活用した情報提供や啓発活動による周知を図ることで、ファミリー・フレンドリー企業登録数の増加を目指します。	継続 (現状維持)
(4)結婚活動支援事業	302	★★★★	行政が主催することによる参加者への安心感の提供、地域活性化、少子化対策などの意義からも引き続き行っていく必要があります。	継続 (現状維持)

■重要業績評価指標(KPI)の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

重要業績評価指標(KPI)	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度
		令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和10年度	【CHECK】
(1)ファミリー・サポート・センター会員数	人	724	670					820	△
(3)ファミリーフレンドリー企業登録数	件	8	9					12	○
(4)婚活イベントへの参加者数	人	17	24					50	○

■施策の方向性1の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】

安心して結婚し、子どもを産み育てられる環境づくりとして、各種事業の啓発の強化や人材確保に努め、引き続き、関係機関や民間事業者等と連携して事業を実施します。また、令和7年4月に設置した「こども家庭センター」においては、妊娠期から出産・子育て期まで安心して過ごせるように、児童課と健康推進課が協働連携による一体的な支援を行っていきます。

施策の方向性2 子育て支援の充実

■主な取組(事業)の評価

【評価】必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★(最大評価：★★★★)

主な取組(事業)の名称 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)児童クラブ管理運営事業	146,839	★★★	共働きやひとり親家庭が増加傾向にある中で、放課後児童健全育成事業(児童クラブ)の需要は高まっていることから、令和7年度から利用時間を午後7時まで拡充します。今後も安心安全な施設管理に取り組みとともに、スタッフの確保に努めていきます。	拡充
(2)児童館管理運営事業	70,630	★★★★	習い事やテレビゲームの普及などにより、児童の放課後及び休日の生活状況が変化し、児童館の利用者が減少傾向にあります。安全な子どもの居場所として維持していく必要があります。今後も、時代や市民のニーズに沿った、魅力ある施設運営に努めていきます。	継続 (現状維持)
(3)子育て支援センター管理運営事業	25,273	★★★	子育てに関する相談や育児の情報提供のほか、妊婦や乳幼児の保護者が相互の交流を行う施設として、児童虐待につながる育児ストレスを解消する場ともなっています。時代や保護者のニーズに合わせてながら、利用者が気軽に利用できる施設運営に努めていきます。	継続 (改善)
(4)保育所管理運営事業	1,335,424	★★★★	公立保育所において、待機児童ゼロ施策を継続し、保育に欠ける未就学児童に安全・安心な保育サービスを提供するとともに、多様化する保育ニーズに対応するため民間の力を活用し、「弥富市公立保育所の民営化基本方針」に沿って一部保育所の民営化に順次取り組んでいきます。	継続 (改善)
(5)一時預かり事業	8,509	★★★	多様な保育ニーズへの対応として、市立保育所1か所で1日5人を限度に受け入れをしました。利用者の増加が見込まれるため、受け入れ人数の拡大を検討し、子育て施策の充実に努めます。	拡充
(6)養育支援訪問事業	137	★★★	子育ての知識が豊富な支援員による家庭訪問を実施させることは有意義と考えます。そのため、支援が必要と判断する家庭に訪問を受け入れてもらえるよう、引き続き、保健師及び家庭相談員と連携して適切な支援に繋げていきます。	継続 (改善)
(7)市立保育所民営化(認定こども園化)事業	18,500	★★★★	指定候補法人から派遣された保育士と共同で保育を実施することで児童の保育環境の変化を最小限におさえ、スムーズな移管を行うことができました。公立保育所の民営化基本方針に基づき、今後も民営化及び認定こども園化を進めていきます。	継続 (現状維持)

■重要業績評価指標(KPI)の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

重要業績評価指標(KPI)	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度 【CHECK】
			令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
(3)子育て支援センターにおける育児相談件数	件	54	37				120	△	
(5)保育所による一時保育の件数	件	580	851				800	◎	
(6)養育支援訪問事業利用者数	人	1	4				15	△	

■施策の方向性2の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】

子育て支援については、引き続き、妊娠期から出産・子育て、若者支援まで切れ目ない持続性のある施策を民間事業者や関係機関と連携し推進します。保育については、令和7年4月から実施した、ひので保育所の民営化について検証を行うとともに、弥富市公立保育所の民営化基本方針に基づき弥生保育所の令和10年度からの民営化に向けた取組を進めます。

施策の方向性3 教育環境の充実と多様な学びの場の提供

■主な取組(事業)の評価

【評価】 必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★(最大評価:★★★★)

主な取組(事業)の名称 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)平和教育推進事業	16,828	★★★★	生徒一人ひとりが平和を願う心情と命の尊さを理解するため、事前に個人及びグループ単位で各教科横断的に学習を深め、実際に被爆地となった広島へ赴くことで戦争の悲惨さや怖さを五感で感じ、体験後には学習発表会や平和パネル展等により他の生徒や市民へ周知することは大変意義があり、今後も事業を継続させる必要があります。	継続 (現状維持)
(2)情報機器整備事業	64,536	★★★★	社会全体でデジタル化が急速に進む中、将来必要とされる「情報活用能力」や「プログラミング的思考能力」などの能力を子どもたちに身に付けさせることがますます重要になっています。子どもたちへ効率的でわかりやすい授業を実施するには、引き続き国のGIGAスクール構想に基づき、ICTを有効活用した授業が必要となるため、適切にタブレット端末やネットワークなどの情報機器の更新が必要となります。	継続 (現状維持)
(3)いじめ問題対策事業	882	★★★★	児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、いじめ問題を未然に防いだり、いじめの早期の発見・解決を図るためには事業の継続が必要です。	継続 (現状維持)
(4)SC(スクールカウンセラー)配置事業	20,560	★★★★	不登校児童・生徒やその保護者の心の相談ニーズは高く、引き続き学校と調整を行い、スクールカウンセラーを配置していきます。小中学校の再編が進んでいくにつれて学校数が減っていくものの、児童生徒、保護者及び教職員の心のケアを考慮し、小中学校再編が落ち着くまでは現状の配置を維持していきます。	継続 (現状維持)
(5)SSW(スクールソーシャルワーカー)設置事業	3,447	★★★★	学校でのいじめや不登校、家庭内での虐待に加え、ヤングケアラーなど児童・生徒を取り巻く課題は多く、生活環境から関わり、学校・家庭・地域などと連携し課題の解決を目指すためには、引き続きスクールソーシャルワーカーの配置が必要です。	継続 (現状維持)
(6)こども相談事業	1,477	★★★★	「やとみっ子お悩み相談室」の案内を市内の小中学校に配布し、メール・電話・手紙・面接等で相談を実施しています。引き続き、必要に応じて子どもたちの支援ができるよう、継続して相談を実施する必要があります。また、「カラフル」における月2回の相談支援については、学校内で相談しにくいことにも対応できるため、毎回予約で埋まっている状況にあるため、引き続き相談支援体制を確保する必要があります。	継続 (現状維持)
(7)放課後の居場所づくり推進事業	0	★★★★	放課後の居場所づくりの一環として、部活動地域展開は休日の活動から平日の活動と段階的に持続可能な体制を構築していく必要があるため、活動母体となる組織の確立や既存の文化・スポーツ団体との調整、指導者の確保などを図っていく必要があります。	拡充

■重要業績評価指標(KPI)の達成度

【達成度】◎:目標値超過を見込む、○:目標値同等を見込む、△:目標値は達成困難、—:把握が困難

重要業績評価指標(KPI)	単位	現状値 令和4年度	各年度の実績値【DO】					目標値 令和10年度	達成度 【CHECK】
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
(4)スクールカウンセラーの年間配置時間数	時間	934.5	3,879.5				1,000	◎	
(5)スクールソーシャルワーカーの年間配置時間数	時間	1,110	1,338				1,500	○	

■施策の方向性3の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】
知・徳・体のバランスが取れ、社会の変化に対応して主体的によりよい生き方を実践することができるよう、児童・生徒の将来に生きる力を育むことを目指し事業を進めます。不登校、SC、SSW事業については、福祉部局と連携しながら重層的支援に努めます。